

コロナ禍における住民の皆様の健康状態に関する調査 報告書 - 大阪府八尾市 -

I. はじめに

新型コロナウイルス感染症（コロナ）の流行は、市民の皆さまの日常生活や健康に少なからず影響を及ぼしてきました。また、コロナ感染で、症状が長引いたり、合併症を併発する可能性などが指摘されていますが、その実態は不明な点が多くあります。

そこで、国立国際医療研究センターでは、八尾市保健所の協力のもと、コロナ禍における住民の皆さまの心身の健康状態や社会的状況、新型コロナウイルスに感染した方の回復状況などについてアンケート調査を行いました。本調査の結果が、皆様の健康や暮らしの実態をお示しし、今後の対策を考える上でお役に立てることを願っております。

今回の主な調査結果は以下の通りです。

- 1) 新型コロナウイルスに感染した方のうち成人では15.0%、小児では6.3%で罹患後症状がみられ、非感染者の2か月以上続く症状の約3倍多い結果でした。
- 2) 罹患後症状に多い症状は、成人では、疲労感・倦怠感、睡眠障害、集中力低下、呼吸困難、小児では咳嗽、倦怠感、味覚・嗅覚障害でした。
- 3) 罹患後症状のある人では、非感染者よりもより生活や経済状況に影響がある傾向が示されました。
- 4) 罹患後症状がある人の割合は、新型コロナワクチン未接種者と比べ、成人・小児ともワクチン接種者で低い結果でした。

II. 調査概要

調査対象

八尾市在住者で令和3年3月～令和4年4月に新型コロナウイルス感染症にかかれた市民の方々、および非感染者の市民の方々。

調査期間

令和4年11月1日～30日

調査方法

本調査に関するご案内を郵送し、研究参加への同意が得られたの方々に対する、紙面またはインターネットによる調査を実施いたしました。

調査主体

本調査は、八尾市保健所と国立国際医療研究センターが共同で行いました。

財源

本調査は、厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業（JPMH21HA2011）を受けて実施いたしました。



回答者

新型コロナウイルスに感染したことがある回答者（感染者）と、感染したことのない回答者（非感染者）の集団にわたる有効回収率をお示しします。成人では全体の回収率は28.7%、小児では38.5%でした。

成人（18歳～79歳）の調査

	配布数	回収数	有効回答*	有効回収率
感染者	13,361件	4,438件	4,278件	32.0%
非感染者	13,324件	4,009件	3,382件	25.4%
合計	26,685件	8,447件	7,660件	28.7%



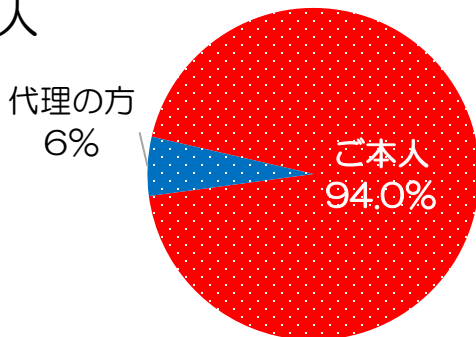
小児（5歳～17歳）の調査

	配布数	回収数	有効回答*	有効回収率
感染者	4,089件	1,809件	1,800件	44.0%
非感染者	4,073件	1,673件	1,341件	32.8%
合計	8,167件	3,484件	3,141件	38.5%

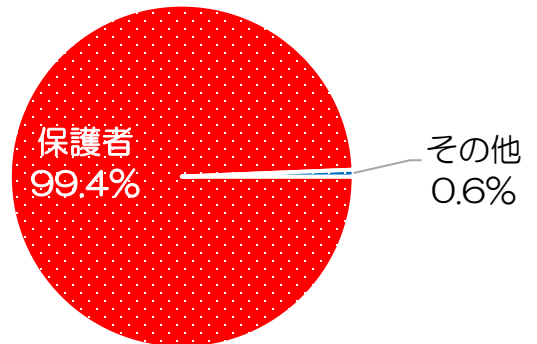
*自治体で登録されている感染情報とご本人の申告された感染情報が異なる方等を除いた

回答者の内訳

成人



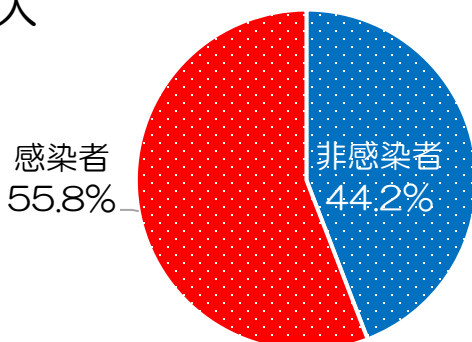
小児



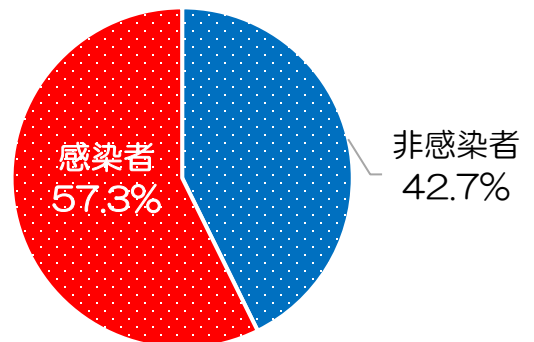
成人の調査ではご本人の、小児の調査では保護者による回答がそれぞれ9割以上でした。

感染の有無

成人



小児

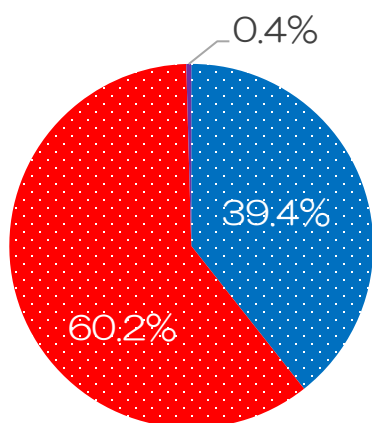


成人、小児の調査とも、それぞれ約6割が感染者でした。

調査回答の概要（成人の調査）

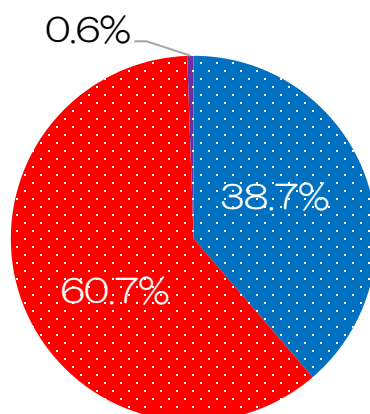
1. 性別

感染者、非感染者ともに、女性が約6割を占めました。



感染者 4,278人・性別

■男性
■女性
■男性・女性と答えることに抵抗を感じる

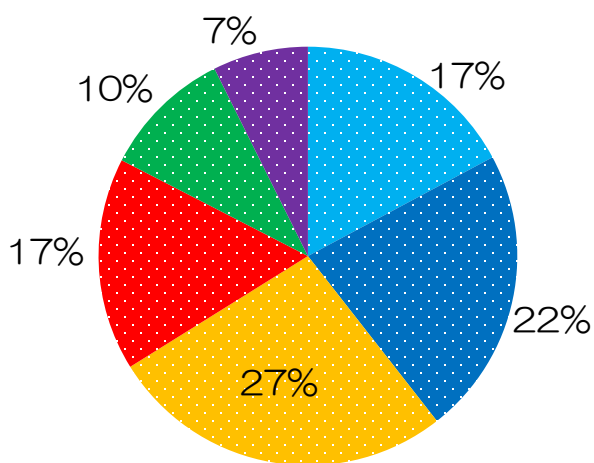


非感染者 3,382人・性別

■男性
■女性
■男性・女性と答えることに抵抗を感じる

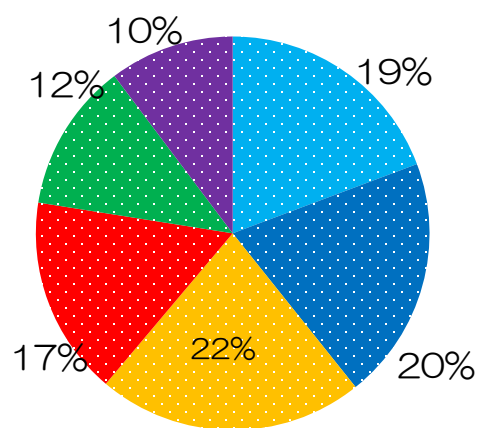
2. 年齢分布

感染者・非感染者ともに、年齢層の割合は、ほぼ同じでした。



感染者 4,278人

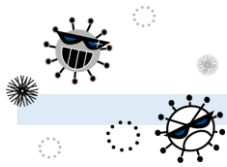
■20~29歳 ■30~39歳 ■40~49歳
■50~59歳 ■60~69歳 ■70~80歳



非感染者 3,382人

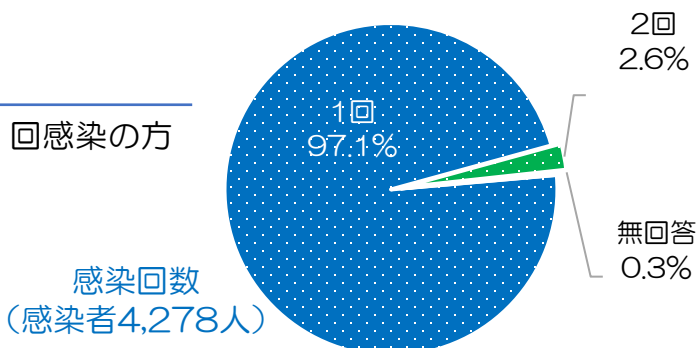
■20~29歳 ■30~39歳 ■40~49歳
■50~59歳 ■60~69歳 ■70~80歳

新型コロナウイルス感染状況



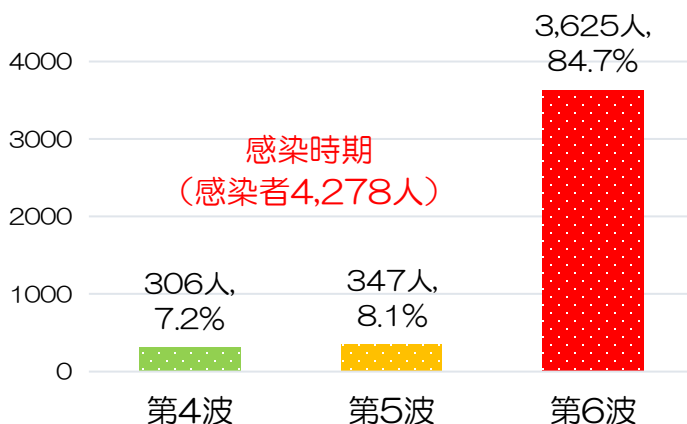
1. 感染回数

新型コロナウイルス感染者では、1回感染の方が大多数でした。



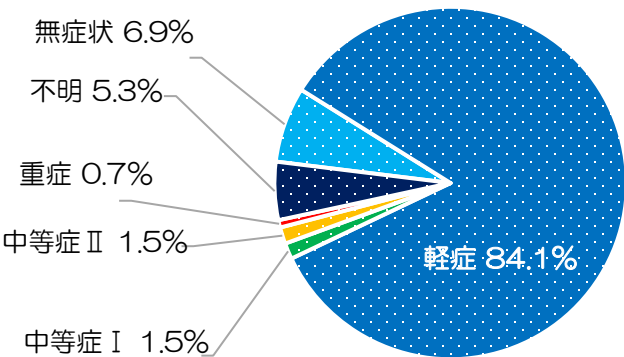
2. 感染時期

感染した時期は、第6波（令和4年1月1日～4月30日の120日間）がほとんどでした。



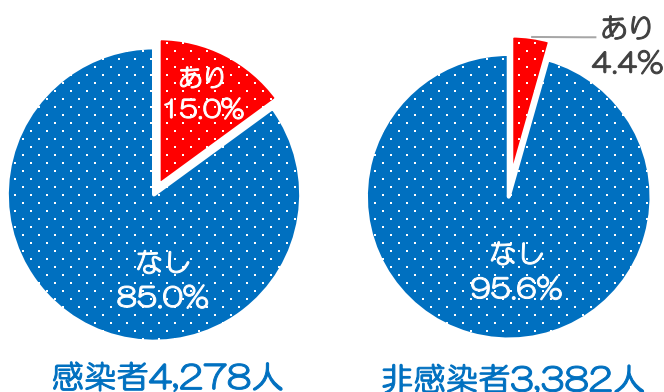
3. 感染時の重症度

感染時の症状は約8割が軽症で、中等症や重症の方は少数でした。



4-1. 感染後の長引く症状（罹患後症状）

感染者のうち、感染後に出現し、少なくとも2か月以上続き、感染から3か月経った時点でもみられる症状があった方は640人で感染者の方の15.0%でした。



1つ以上の症状の有無

<本研究における重症度の定義>

軽症 : 呼吸器症状なし（または呼吸困難なし）。

中等症Ⅰ : 呼吸困難・肺炎所見あり。

中等症Ⅱ : 酸素投与必要。

重症 : 集中治療室における治療または人工呼吸器が必要。

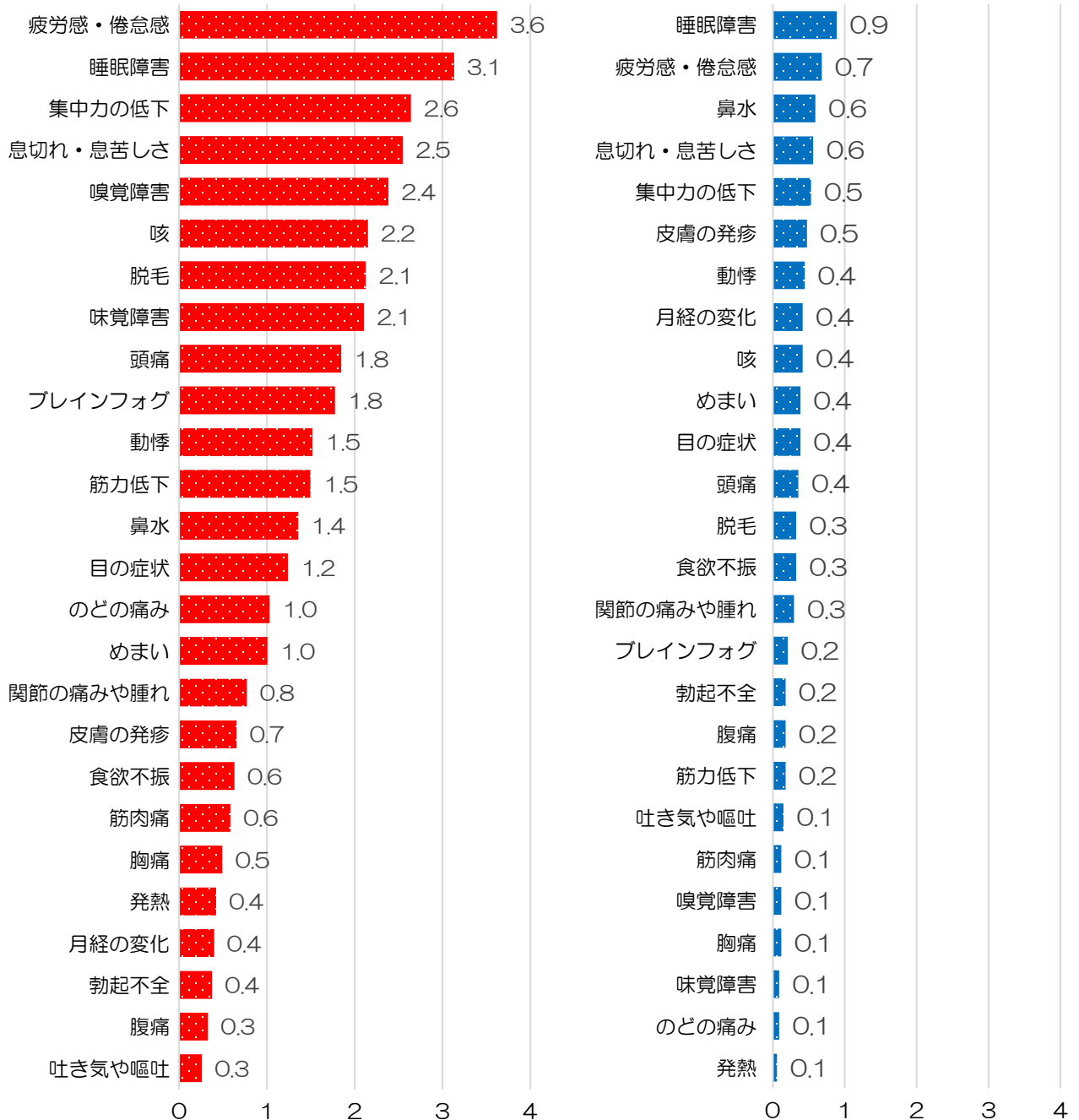
(新型コロナウイルス感染症診療の手引き第10.0版より)

4-2. 罹患後症状の各症状について

感染者では、長引く症状（罹患後症状）としてもっとも多いものが、「疲労感・倦怠感」で、続いて「睡眠障害」「集中力の低下」「息切れ・息苦しさ」でした。一方で、非感染者では、「睡眠障害」がもっとも多く、続いて「疲労感・倦怠感」でした。

感染者 4,278人に対する割合（％）

非感染者 3,382人に対する割合（％）

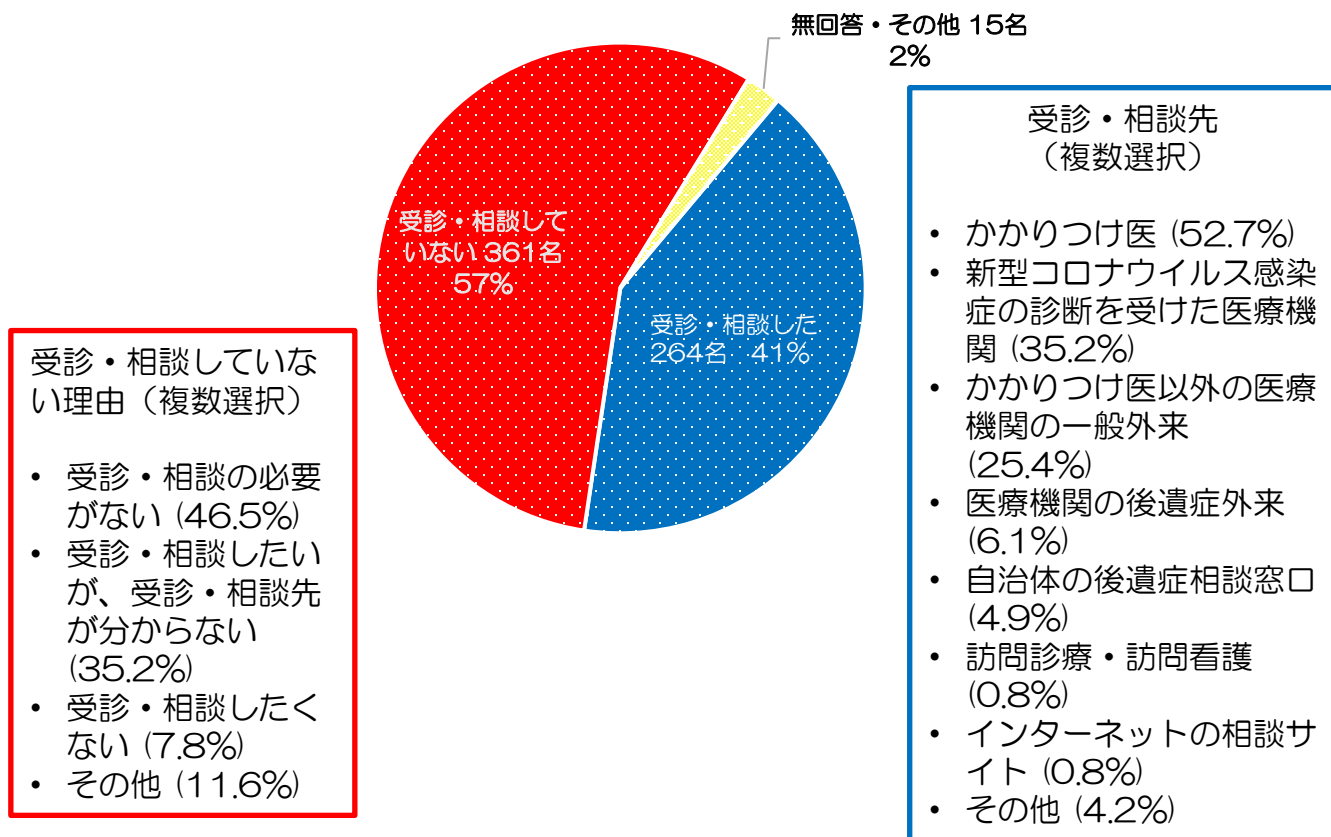


睡眠障害：なかなか寝つけない、夜間や早朝に目が覚める。
 目の症状：目の痛み、かゆみ、異物感、充血、涙目、目やに、かすみ目、見えづらさといった症状。
 ブレインフォグ：脳に霞がかかったような状態のことで「ぼんやりしている」「混乱している」新しくものを覚えることが難しい」「優柔不断」「しっかり考えられない」などの状態。
 嗅覚障害：においの感じ方が以前と比べておかしい。
 味覚障害：味の感じ方が以前と比べておかしい。

5. 罹患後症状に対する受診・相談状況

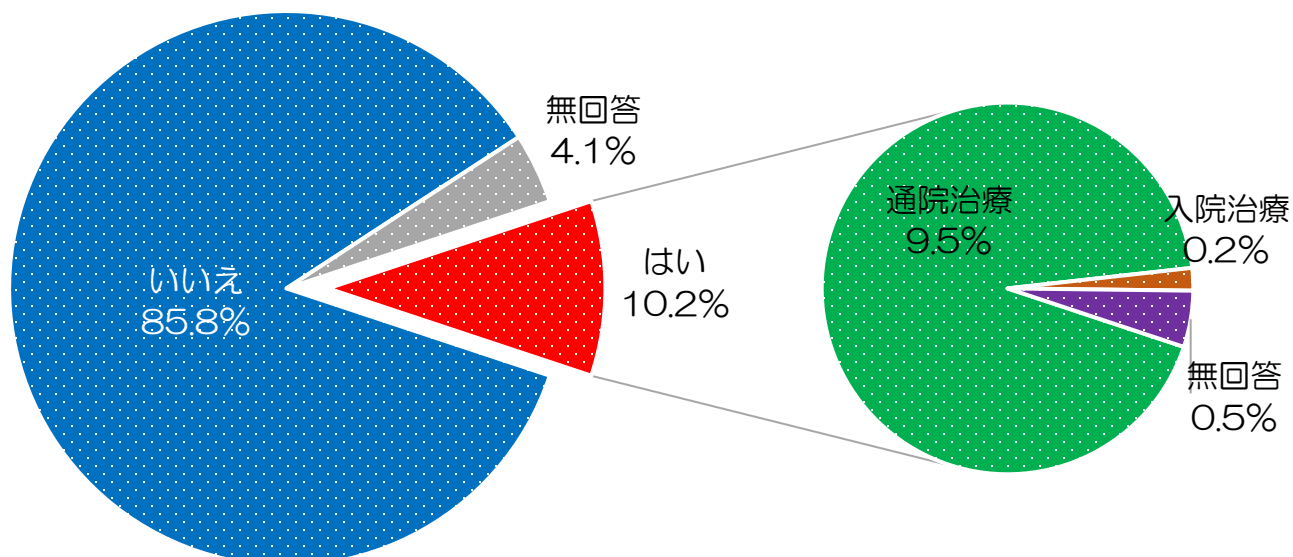
新型コロナウイルス感染後に長引く症状（罹患後症状）があった640人の結果です。新型コロナウイルス感染後の症状に対して受診・相談されていた方は264人（41%）でした。主な受診・相談先は、半数がかかりつけ医でした。

一方、受診・相談していない方361人のうち、35%の方が、「受診・相談したいが、受診・相談先がわからない」と回答されていました。



6. 罹患後症状に対する現在の治療の有無と治療状況

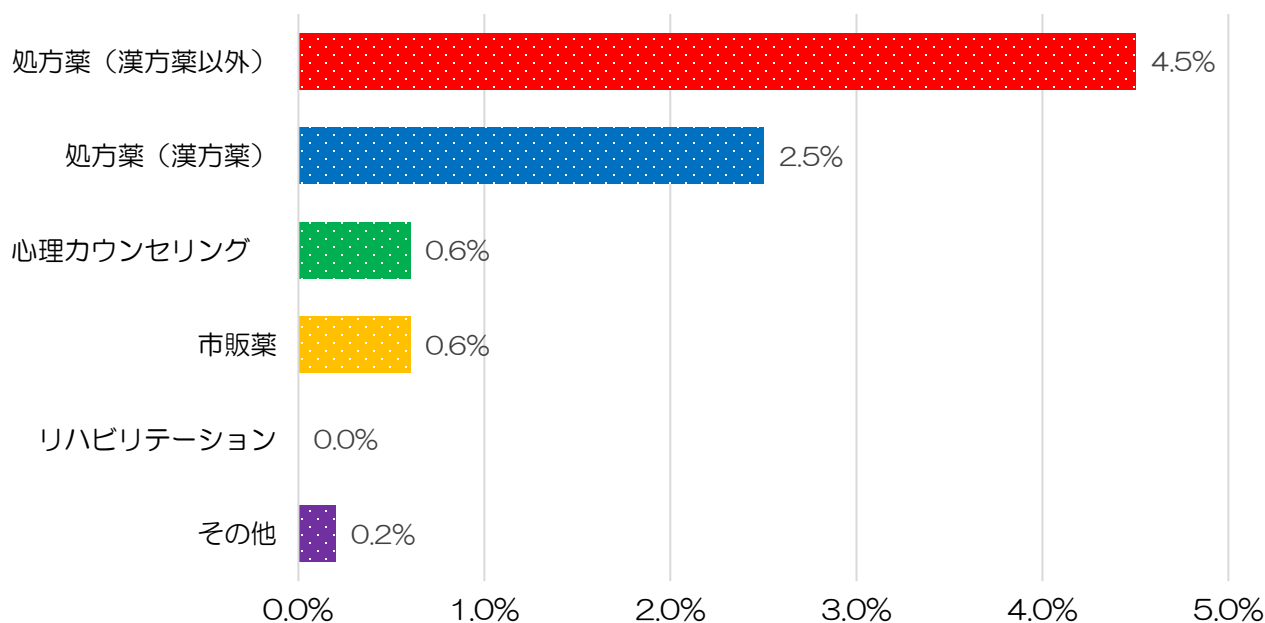
罹患後症状があった方（640人）のうち、1割の方が現在も治療を受けていました。その多くは通院治療をされていました。



罹患後症状があった方（640人）の現在の治療の有無と治療者の入院・通院状況

7. 現在も治療を受けている方（65人）の治療内容

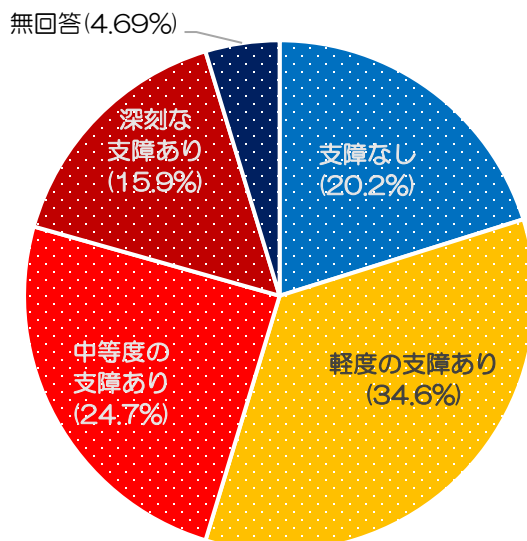
具体的な治療内容をお示しします。漢方薬以外の処方内容が多く、次いで漢方薬による治療をされていました。



治療内容（罹患後症状があった640人に対する割合）

8. 罹患後症状の現在の生活への支障度

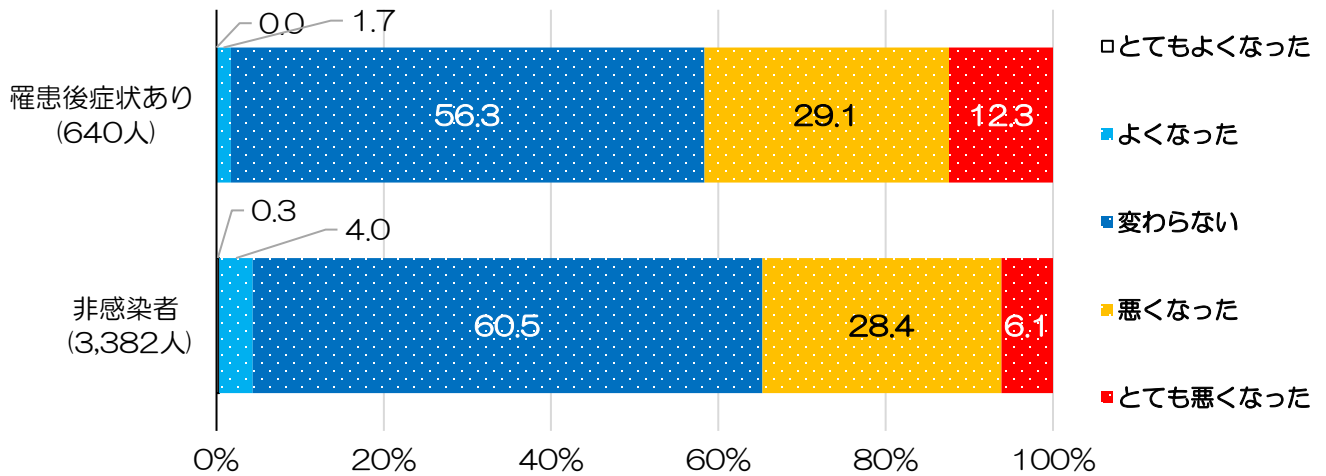
罹患後症状が、どの程度、現在の生活上に支障をきたしているかを尋ねたところ、半数以上が何らかの支障があると回答されていました。このうち、4割近い方が中等度の支障があると回答され、さらに、深刻な支障があると回答された方も16%おられました。



罹患後症状による現在の日常生活への支障度（640名）

主観的な経済状況の変化

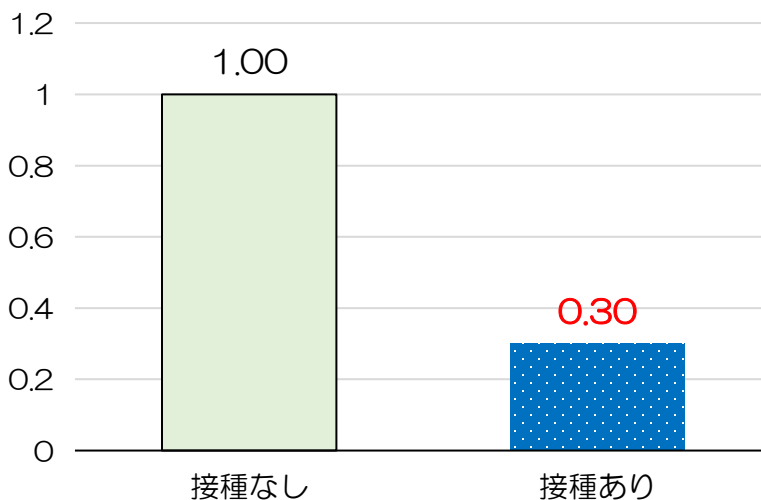
新型コロナウイルス感染者の方で、罹患後症状がある方は、非感染者の方よりも、経済状況に影響がある傾向が示されました。



新型コロナウイルスワクチン

1. ワクチン接種と感染

新型コロナワクチンを接種した人では、接種していない人より、新型コロナウイルスに感染する頻度は7割少ない結果でした。

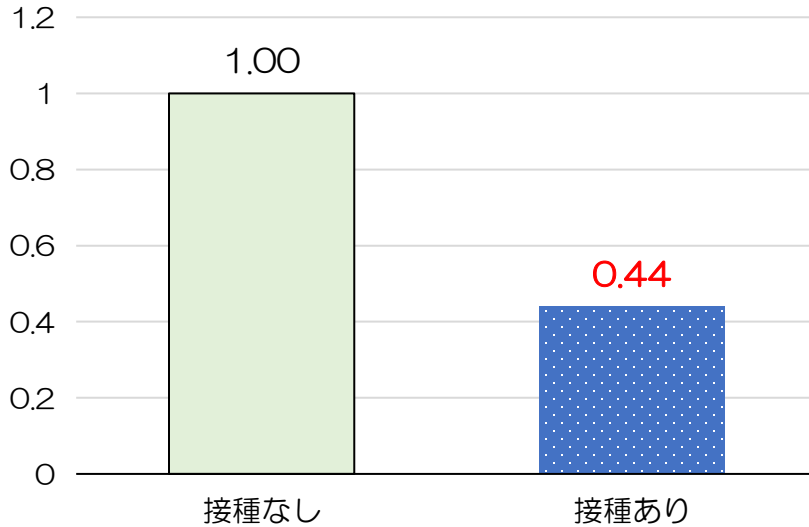


新型コロナウイルスワクチン未接種を1とした場合の感染頻度

※この調査はワクチンの効果を検証する調査ではないため、その効果を厳密には判定できません。

2. ワクチン接種と罹患後症状

新型コロナウイルス感染者のうち、新型コロナワクチンを接種した人では、接種していない人より、罹患後症状の頻度が5割強少ない結果でした。



新型コロナウイルスワクチン未接種を1とした場合の罹患後症状の発症頻度

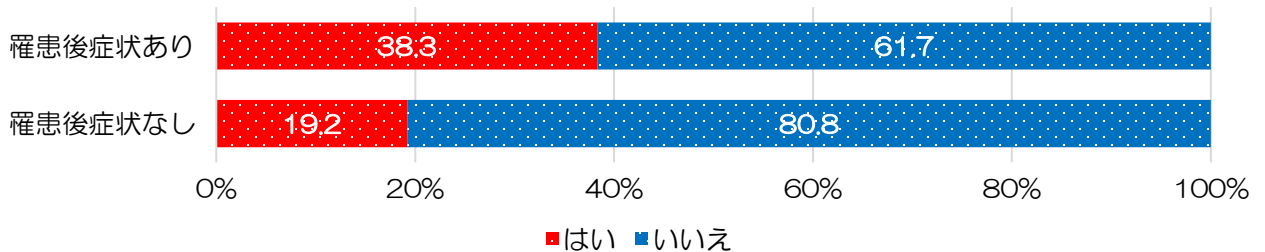
※この調査はワクチンの効果を検証する調査ではないため、その効果を厳密には判定できません。



加齢による心身の変化（60歳以上の方による回答結果）

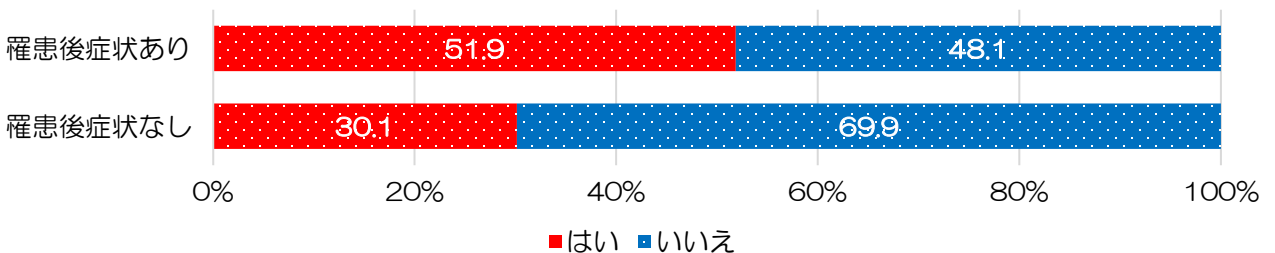
1. 6か月で2～3kgの体重減少がありましたか？

回答時の過去半年の間で、2～3kgの体重減少があった人は、罹患後症状のある方で4割弱と、罹患後症状のない方の2割弱に比べて高い結果となりました。



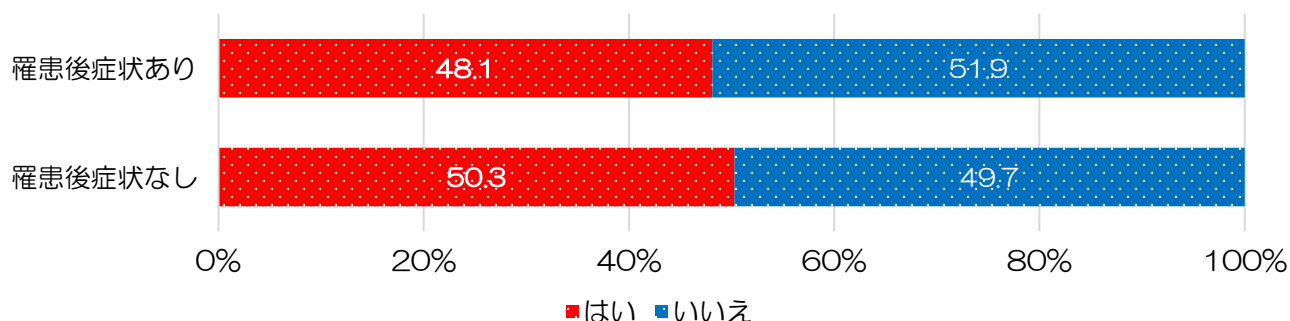
2. 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか？

以前に比べて歩行速度が遅くなってきたと感じた人は、罹患後症状のある方で5割強、罹患後症状のない方の3割に比べて高い結果となりました。



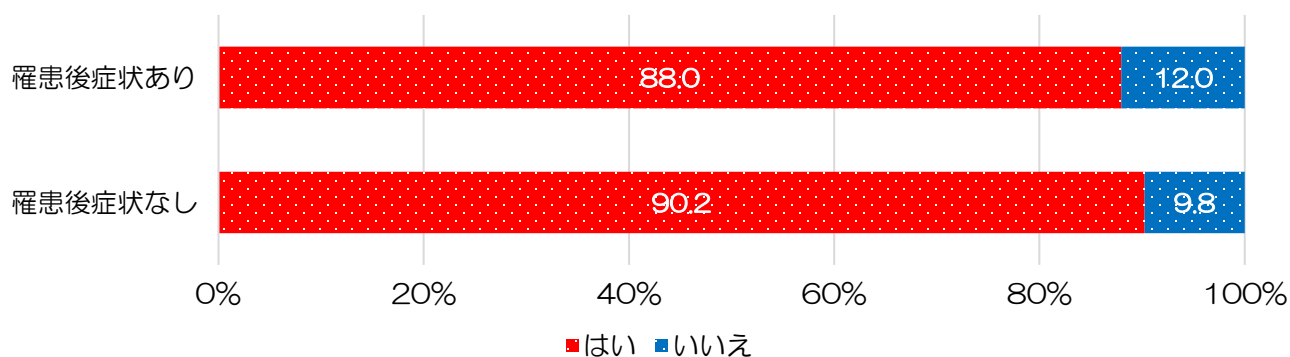
3. ウォーキングなどの運動を週に1回以上していますか？

ウォーキングなどの運動を週に1回以上している人は、罹患後症状ありの方、罹患後症状のない方ともに5割程度でした。



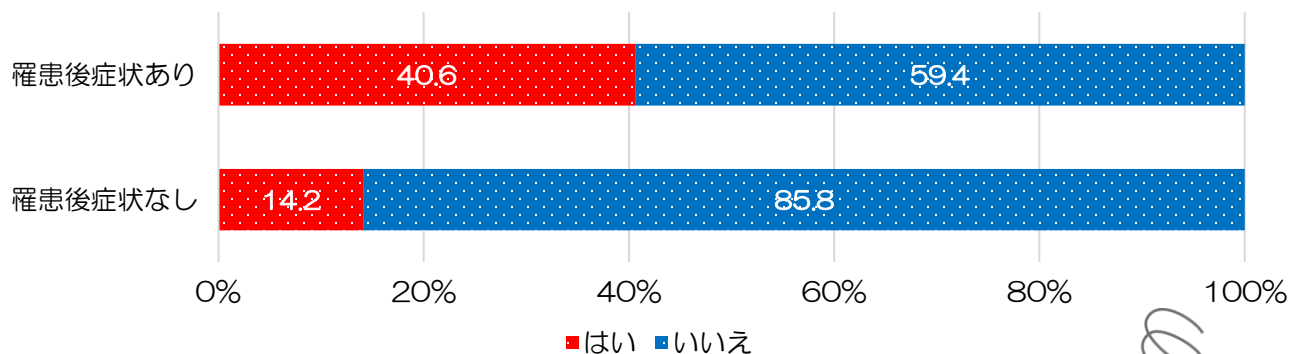
4. 5分前のことが思い出せますか？

過去半年間で、5分前のことが思い出せないと回答された方は、罹患後症状の有無に関わらず、1割程度でした。



5. (ここ2週間) 訳もなく疲れたような感じがすることはありますか？

直近の2週間で訳もなく疲れてしまった感じがある方は、罹患後症状があった方が4割おられたことに対して、罹患後症状のなかった方では1割強であり、差が見られました。





調査回答の概要（小児の調査）

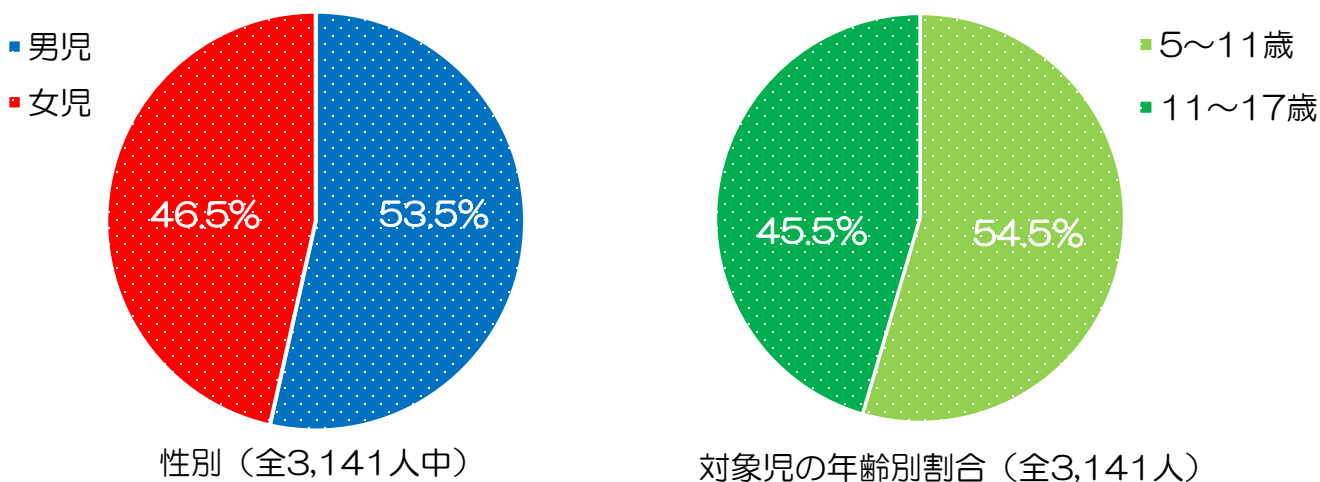


1. 回答者数と回答者

小児においては、全体の57%が新型コロナウイルスに感染されたことがある方（感染者）、43%が新型コロナウイルスに感染したことがない方（非感染者）でした。また、保護者回答の回答者は、ほとんどが母親でした（Ⅱ. 調査概要、回答者の内訳、感染の有無を参照ください）。

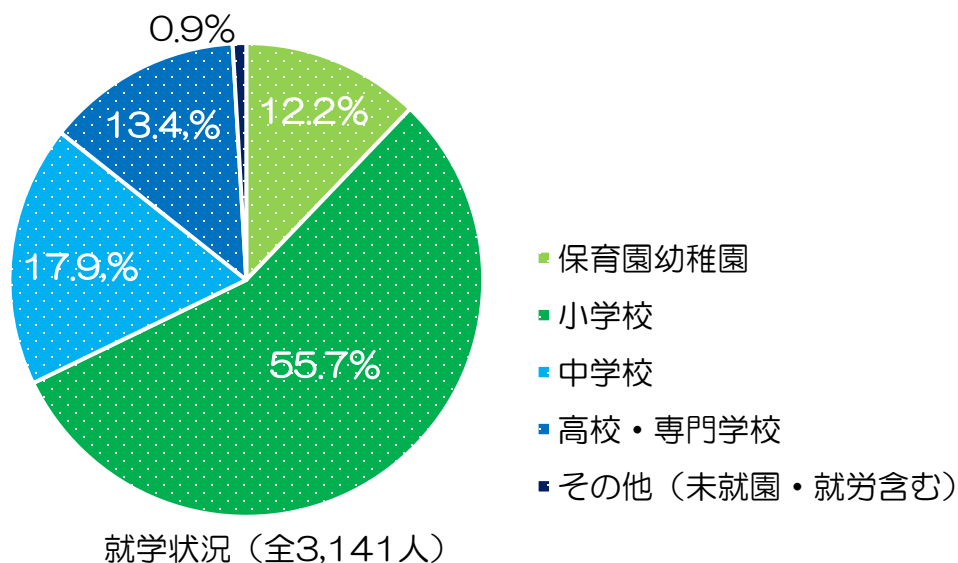
2. 性別と年齢

対象児の性別は感染の有無を問わず、半数強が男児でした。また、5歳から11歳が半数強でした。



3. 就学（就労）状況

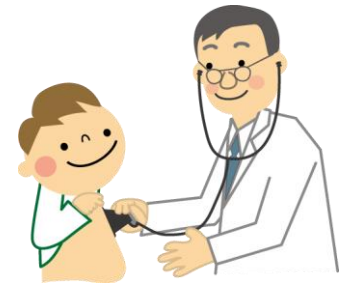
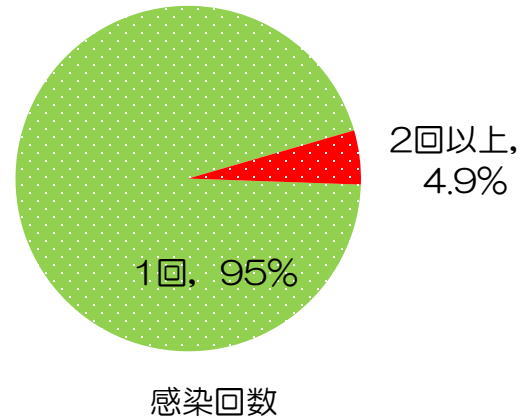
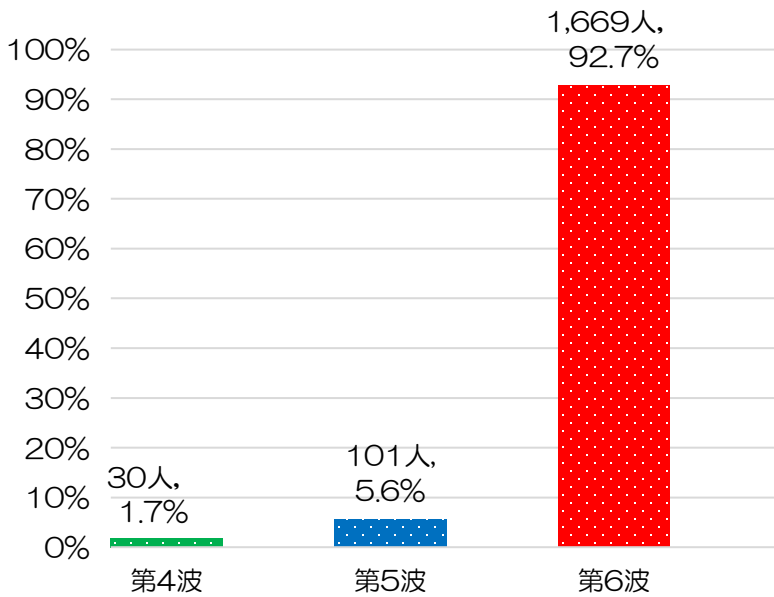
回答してくださった方のお子さんの現在の就学状況は、感染者・非感染者とも半数以上が、小学生でした。次いで、中学生、高校・専門学校生、保育園・幼稚園の順でした。



4. 感染者（1,800人）の感染状況

感染者の多くが第6波（2022年1月1日～4月30日）の感染者でした。

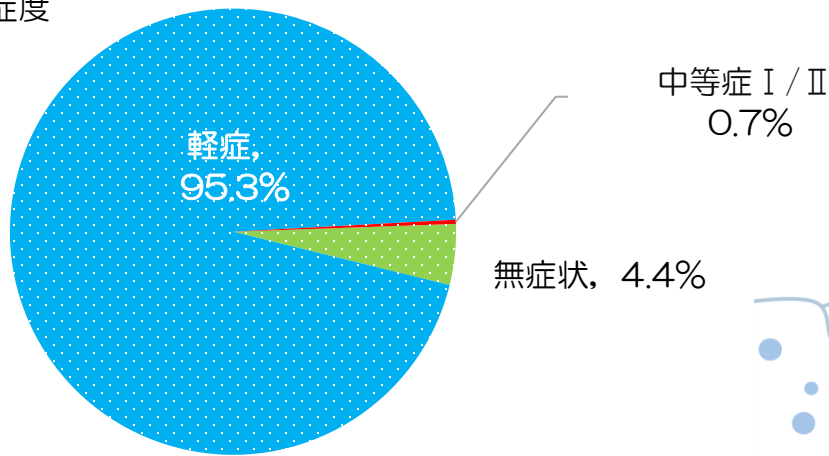
感染時期による感染者数の推移



5. 感染者（1,800人）の重症度

感染者のほとんどが軽症で、肺炎や酸素投与を要するようなお子さんは少数でした。

感染者の重症度



<本研究における重症度の定義>

- 軽症：呼吸器症状なし（または呼吸困難なし）。
- 中等症Ⅰ：呼吸困難・肺炎所見あり。
- 中等症Ⅱ：酸素投与必要。
- 重症：集中治療室における治療または人工呼吸器が必要。

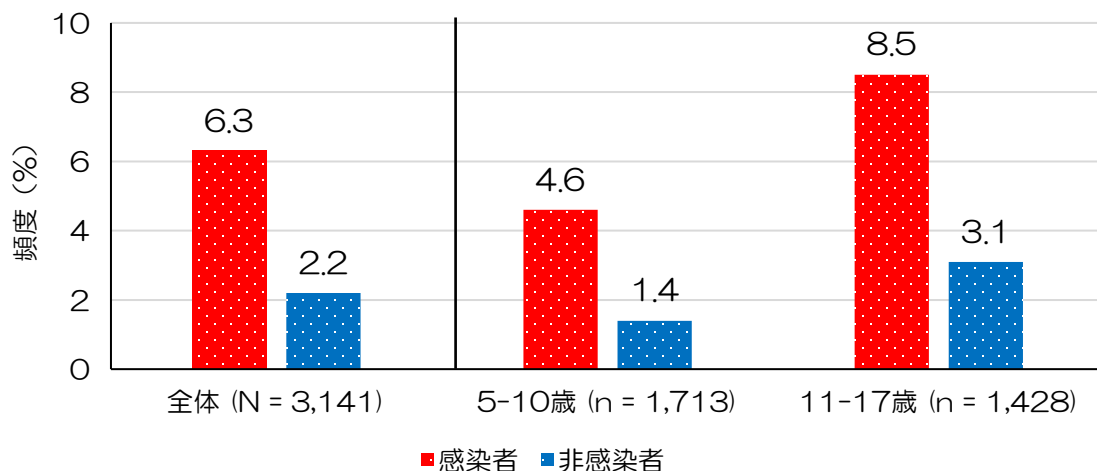
（新型コロナウイルス感染症診療の手引き第10.0版より）

6. 新型コロナウイルス感染後の長引く症状（罹患後症状）

感染者と非感染者における長引く症状の頻度をお示しします。

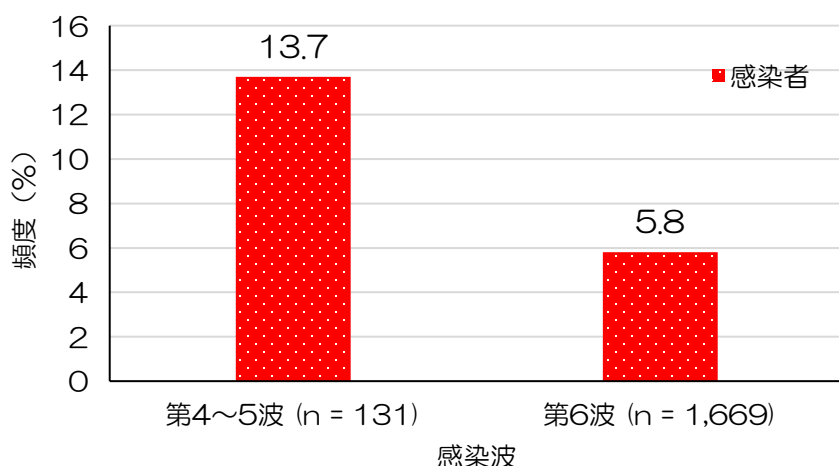
感染者においては、「コロナ感染後に出現し、少なくとも2か月以上続き、感染から3か月経った時点にもみられる症状」についてお示ししています。非感染者においては、2022年3月から調査回答時点までの間に2か月以上続いた症状についてお示ししています。

第4～6波における罹患後症状の頻度



新型コロナウイルス感染後の長引く症状（罹患後症状）は、感染者で6.3%、非感染者で2.2%と感染者において多い結果となりました。また、年代別では5～10歳に比べて11～17歳の方が頻度が多い結果でした。

感染時期別の罹患後症状の頻度



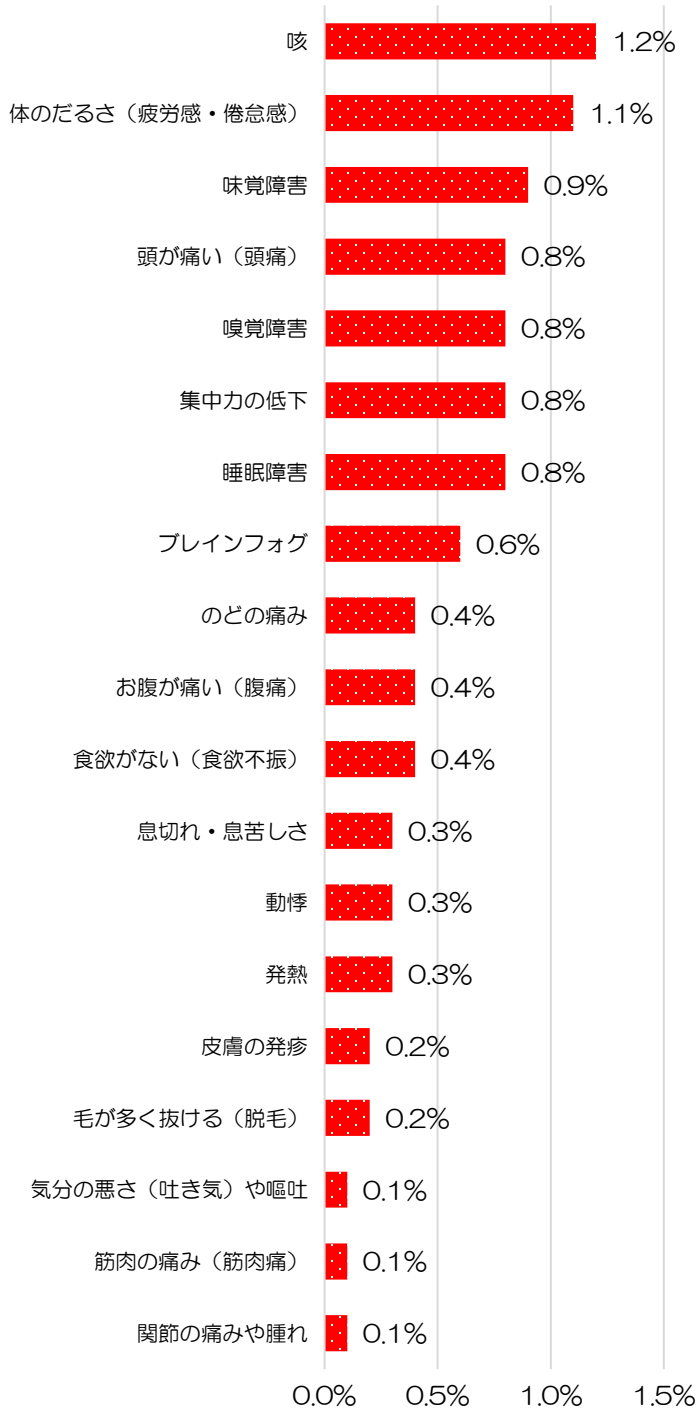
感染時期別では、第6波感染者と比べて第4～5波感染者で頻度が多く見られました。



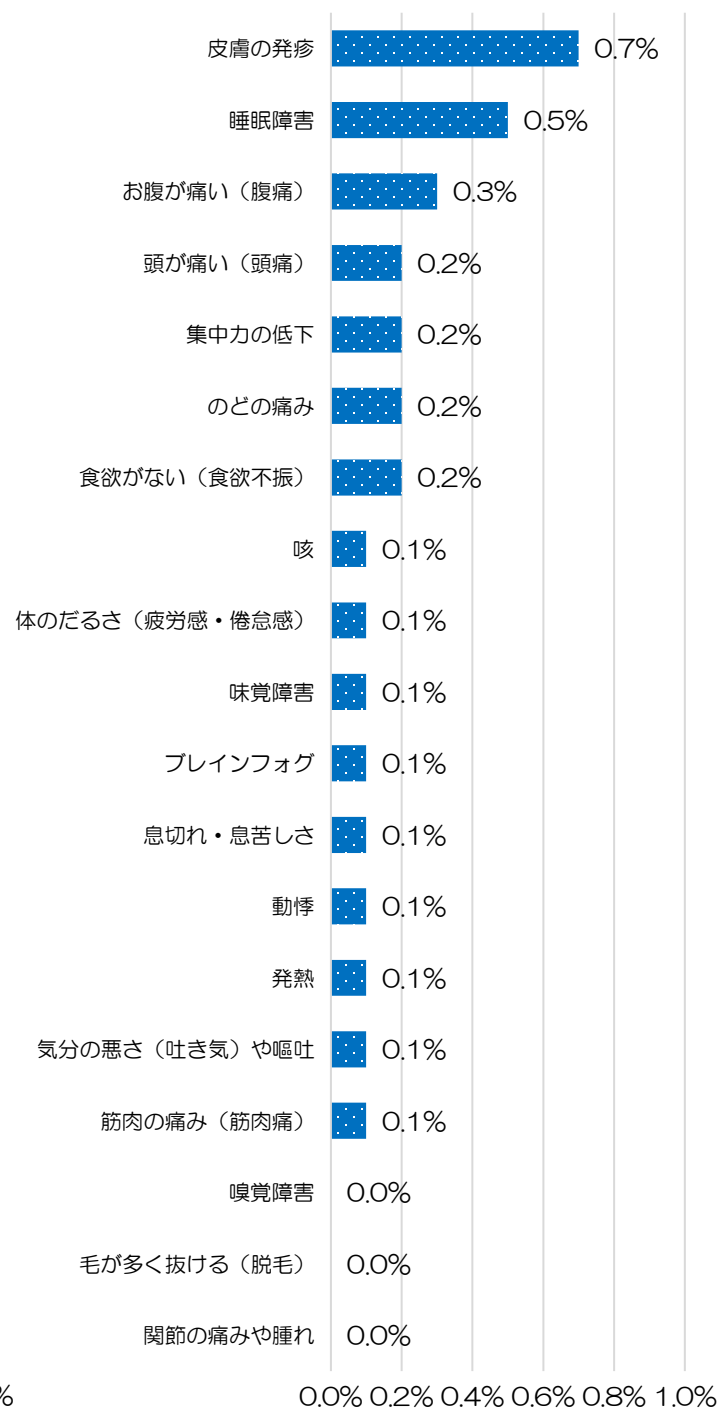
7. 罹患後症状（長引く症状）の各症状について

感染者で多く見られた罹患後症状は、多い順に「咳」、「疲労感・倦怠感」「味覚障害」「頭痛」となりました。一方で、非感染者の2か月以上長引く症状としては、「発疹」がもっとも多く、続いて「睡眠障害」でした。

感染者 1,800人に対する割合 (%)



非感染者 1,341人に対する割合 (%)

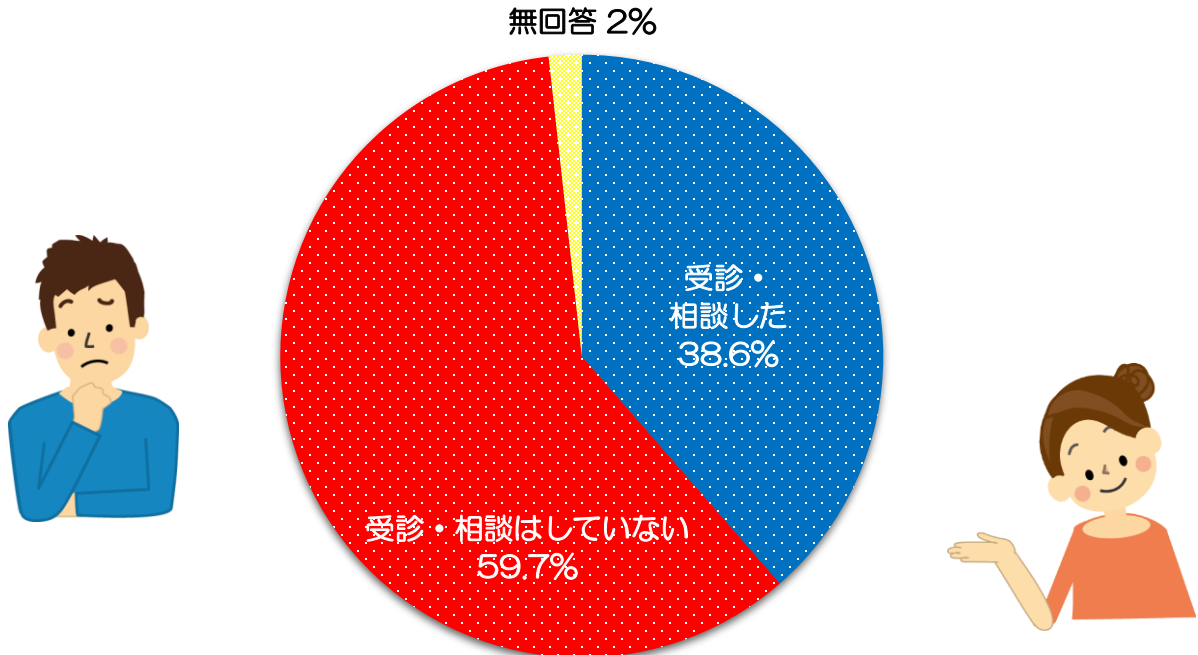


- *味覚障害 : 味の感じ方が以前と比べておかしい。
- *嗅覚障害 : においの感じ方が以前と比べておかしい。
- *ブレインフォグ : 脳に霧がかかったような状態のことで「ぼんやりしている」、「混乱している」「新しくものを覚えることが難しい」、「優柔不断」、「しっかり考えられない」などの状態。
- *睡眠障害 : なかなか寝つけない、夜間や早朝に目が覚める。

8. 新型コロナウイルス感染後の罹患後症状に対する受診・相談状況

新型コロナウイルス感染後に罹患後症状があったお子さん114人のこれまでの受診・相談状況をお示します。

受診・相談されていた方は44人（38.6%）で、主な受診・相談先は、かかりつけ医が半数を超えました。一方、受診・相談していない方68人（59.7%）のうち、2割の方が、「受診・相談したいが、受診・相談先がわからない」と回答されていました。



受診・相談していない理由 （複数選択）

- 受診したいが、受診・相談先がわからない (20.6%)
- 受診・相談の必要がない (64.7%)
- 受診・相談したくない (4.4%)

受診・相談先 （複数選択）

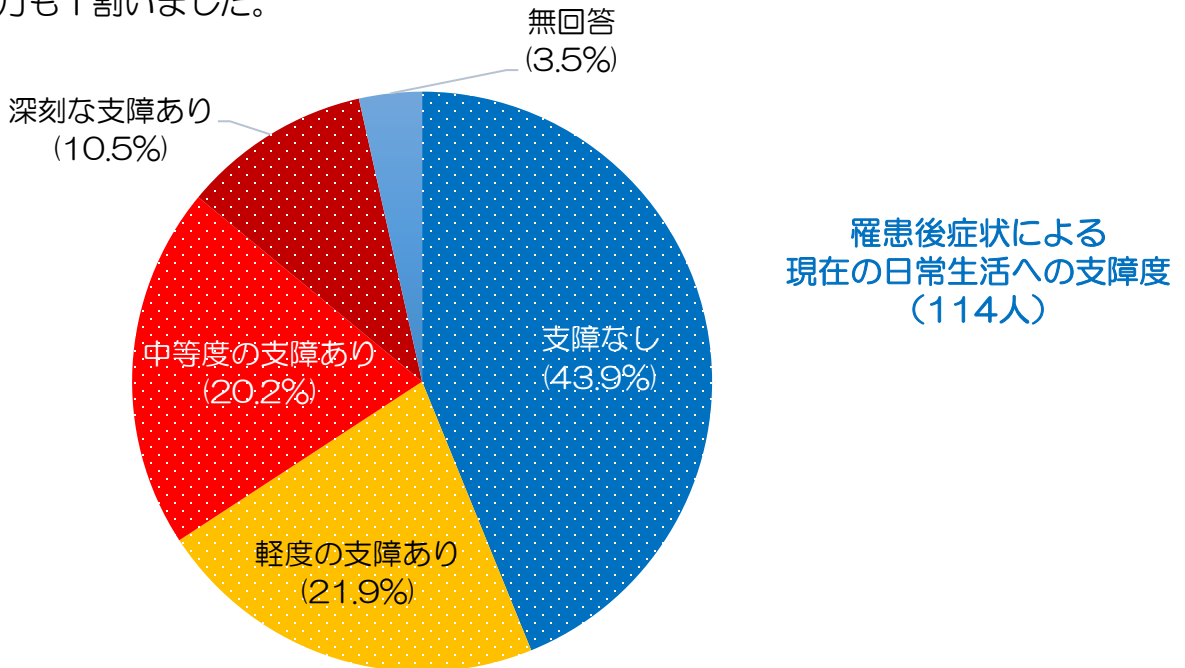
- コロナの診断や治療を受けた病院 (36.4%)
- かかりつけ医 (54.6%)
- かかりつけ医以外の医療機関の一般外来 (22.7%)
- 後遺症外来 (2.3%)
- 自治体のコロナ後遺症相談窓口 (4.6%)
- インターネットの相談サイト (2.3%)

また114人のうち、現在も、治療を受けている人は12人（11.0%）でした。主な治療内容としては、投薬や心理カウンセリング等がありました。



1. 罹患後症状の生活への支障度合

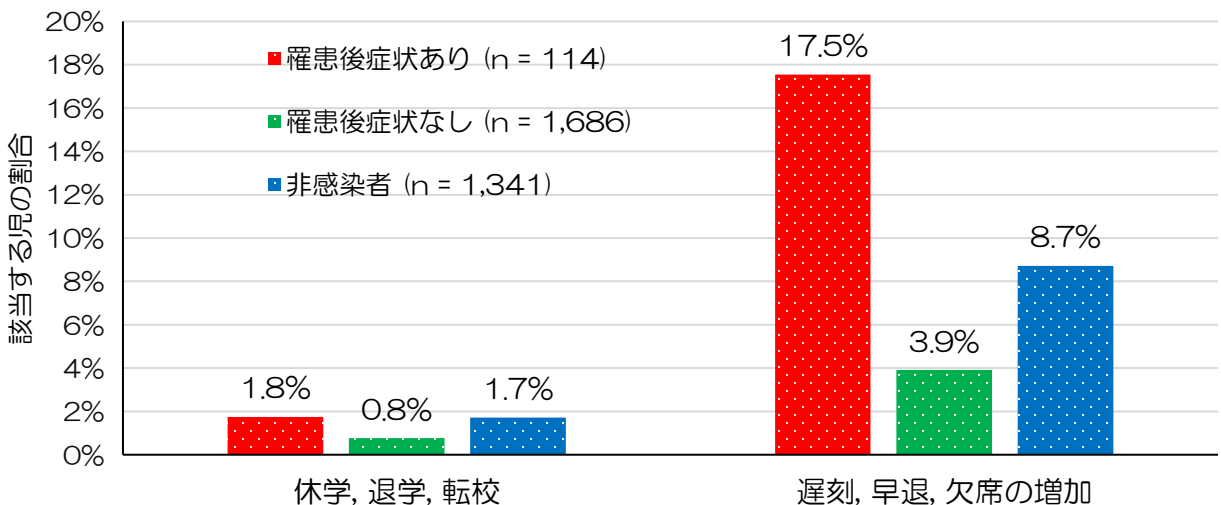
罹患後症状が、どの程度、現在の生活上に支障をきたしているかを伺ったところ、半数以上が何らかの支障があると回答されていました。このうち、深刻な支障があると回答された方も1割いました。



2. 生活の変化

感染者には新型コロナウイルスに感染した前後で、非感染者では2021年3月以前との比べて生活がどのように変化したかを伺いました。

感染者では、罹患後症状があったお子さんにおいて、遅刻・早退・欠席といった状態が増えたと回答した方が2割弱と、罹患後症状がなかったお子さんや非感染者と比べて多く見られました。



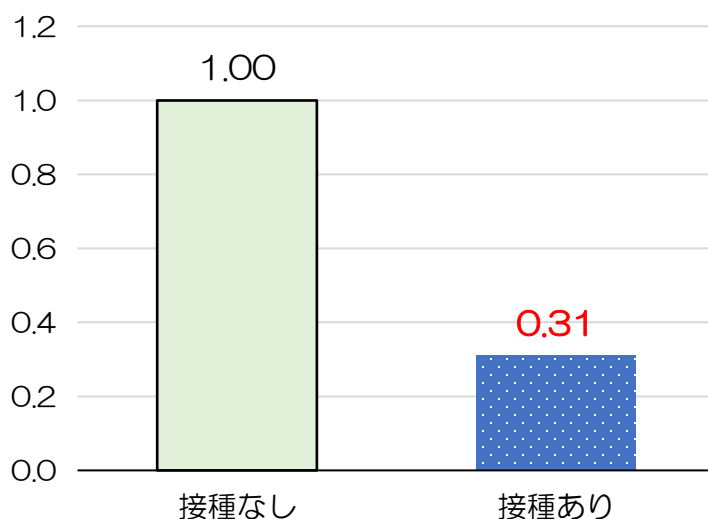


新型コロナウイルスワクチン

感染者のうち、感染14日以上前に新型コロナウイルスワクチンを接種していた人は296人（16.6%）でした。非感染者では2022年4月末までにワクチンを接種していた人は398人（29.6%）でした。

1. ワクチン接種と感染

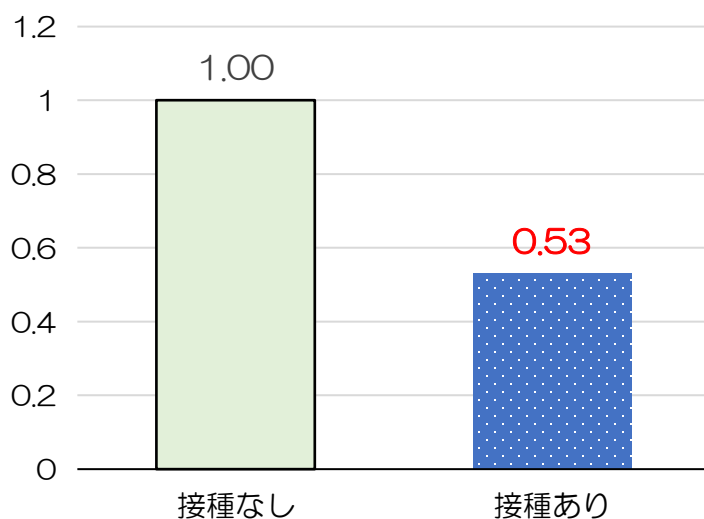
新型コロナワクチンを接種した人では、接種していない人より、新型コロナウイルスに感染する頻度は約7割少ない結果でした。



新型コロナウイルスワクチン未接種を1とした場合の感染頻度

2. ワクチン接種と罹患後症状

感染前に新型コロナワクチンを接種した人では、接種していない人より、罹患後症状が約5割少ない結果でした。



新型コロナウイルスワクチン未接種を1とした場合の罹患後症状の発症頻度

※この調査はワクチンの効果を検証する調査ではないため、その効果を厳密には判定できません。

コロナ禍における住民の皆様の健康状態に関する調査報告書 - 大阪府八尾市 -

発行・編集：国立国際医療研究センター国際医療協力局

グローバルヘルス政策研究センター

令和5年10月